

AT-WDM03 リリースノート

この度は、AT-WDM03 をお買いあげいただき、誠にありがとうございます。
このリリースノートは、付属のマニュアルに記載されていない内容や、ご使用前にご理解いただきたい注意点など、お客様に最新の情報をお知らせするものです。
最初にこのリリースノートをよくお読みになり、本製品を正しくご使用ください。

1 ファームウェアバージョン 1.1.0

2 本バージョンで追加された機能

ファームウェアバージョン 1.0.0 から 1.1.0 へのバージョンアップにおいて、以下の機能が追加されました。

2.1 AT-G2MA/MB への対応

WD1002 用拡張ポート付きリモートポートモジュール (1470/1490/1590/1610nm 帯 Intermediate reach) 「AT-G2MA」「AT-G2MB」に対応しました。

3 本バージョンでの制限事項

ファームウェアバージョン 1.1.0 には、以下の制限事項があります。

- 3.1 スタック接続されたユニットのループバック機能を有効にしている際、当該のユニットのスタック接続の状態を変更した場合、ミッシングリンク機能が無効に設定されることがあります。本製品にユニットをスタック接続した場合は、ミッシングリンク機能の状態を確認してください。
- 3.2 SNMP の MIB-II オブジェクトに次のような制限があります。
 - ip グループの ipNetToMediaIndex の値を一覧表示させた場合と詳細表示させた場合で値が異なることがあります。正しい値は「45」となります。
 - snmp グループの snmpEnableAuthenTraps の値が実際の値とは異なることがあります。正しい値は、SHOW SNMP TRAP コマンドで確認してください。
- 3.3 リンクテスト機能を実行する際、場合によって、RLL エラーが検出されることがあります。



リンクテストには、RLL エラーによる影響はありません。

ヒント

4 取扱説明書の誤記訂正

4.1 UTPケーブルの記述について



「AT-WDM03 取扱説明書」218 ページの「トラブル例」

「ネットワークケーブルを接続しても L/A LED が点灯しない」の記載の一部に誤りがありましたので、以下のように訂正してお詫びいたします。

- ⑧ 通信モードをオートネゴシエーション以外に設定した場合は MDI となりますので、ケーブルタイプに注意してください。接続先のポートが MDI の場合はストレートタイプ、接続先のポートが MDI-X の場合はクロスタイプのケーブルを使用します。
- ⑨ 通信モードをオートネゴシエーション以外に設定した場合は MDI となりますので、ケーブルタイプに注意してください。接続先のポートが MDI の場合はクロスタイプ、接続先のポートが MDI-X の場合はストレートタイプのケーブルを使用します。